

研 究 紀 要

(第 68 集一分冊)

看 護 部 会

講 演

「授業・臨地実習の評価・改善について」

学校法人あじさい学園 中部国際医療学院

学校長 糸 賀 暢 子 …… 1

研究協議

「多様性を重視した次世代の看護職の育成」

発表者 千葉学園高等学校 教諭 山 岸 理津子 …… 6

青森県立黒石高等学校 教諭 柴 田 紗貴子 …… 7

助言者 青森県立黒石高等学校 教頭 平 山 貴 …… 10

部 会 の 動 き …… 11

研 究 テ ー マ …… 12

紀要編集委員 外 崎 留理子 (黒石高等学校)

中 村 寿 子 (黒石高等学校)

令 和 6 年 度

青森県高等学校教育研究会

看護部会

講演

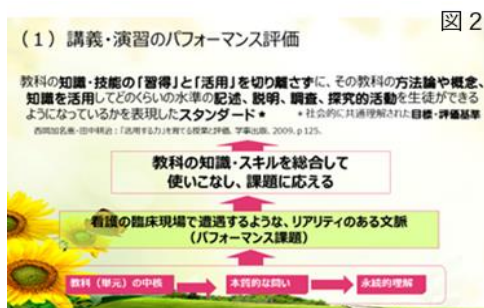
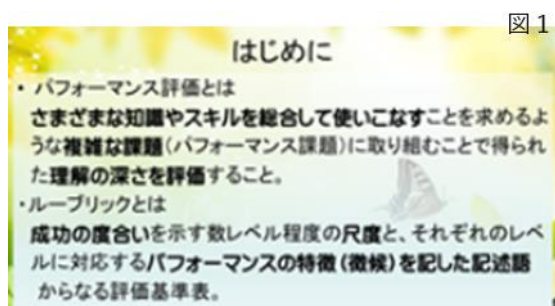
「授業・臨地実習の評価・改善について」

学校法人 あじさい学園 中部国際医療学院
学 校 長 糸 賀 暢 子 氏

本日は、「考える力・動く力を見る適切な評価をするために,」「授業・臨地実習のルーブリックの点検・改善ができるようになる!」ことを目指す。

はじめに

パフォーマンス評価は, 従前の学習評価の考え方, ゴール, 観点が異なる。パフォーマンス評価は, 看護基礎教育のゴールを根本的に変えると実感している。



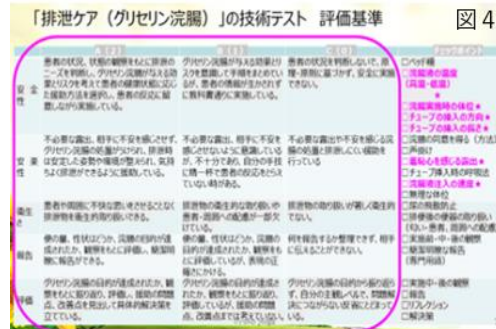
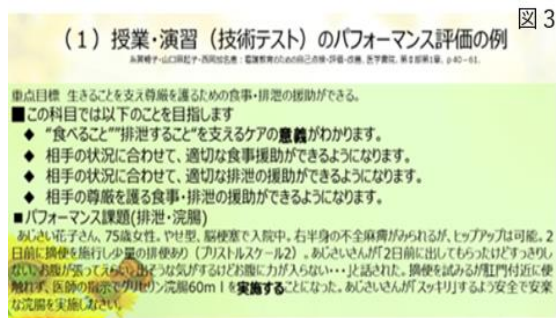
1. 看護教育における「考える力」「動く力」とは？

パフォーマンス評価では, 授業・演習を終えた生徒が, 臨地実習や卒業後に臨床現場でどのような看護が実践できるようになるか具体的なゴール(評価)から遡り, 授業・演習を「逆向き」に設計する必要がある。教科(単元)で何ができるようになるか中核となる重点目標を設定し, 対応する「本質的な問い」と, 理解して欲しい「永続的理解」を考え, パフォーマンス課題とルーブリックを作成して授業を設計する。パフォーマンス課題の提示では学生のレディネスを考慮した工夫が必要である。

図3は授業, 演習のパフォーマンス評価の例で排泄ケアの指導案である。2つの単元で構成され, シラバスには単元で何が「できるようになるか」を明示している。パフォーマンス課題は, 技術テストの課題に関連する。

ルーブリックの作成過程で, 評価規準や評価基準が行動目標や手順になるという悩みはないか。「なにがどこまでできていれば安全といえるのか」を具体的文脈で示するのがルーブリックである。

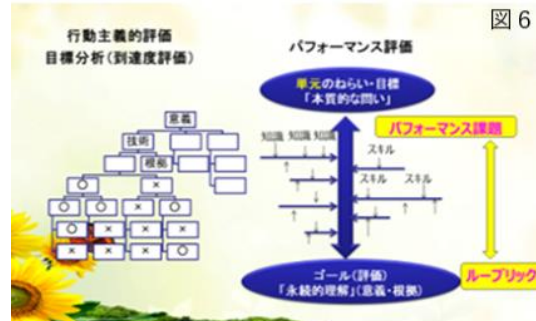
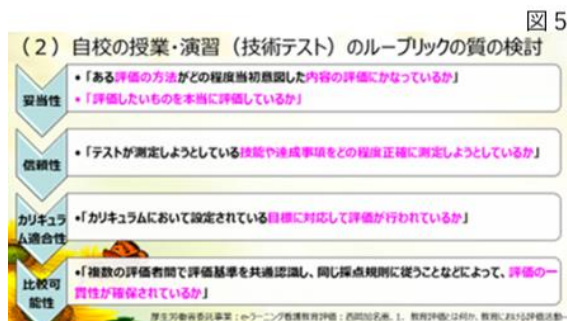
図4は「排泄ケア(グリセリン浣腸)」の技術テストの評価基準で, チェックポイントを置いている。ルーブリックは, 評価規準と基準(尺度, 徴候)の一セットであり, この表は「評価基準」としている。評価基準の観点が「安全性」「安楽性」「衛生さ」「評価」であり, この観点は評価規準の重要概念のみとしている。安全性のA: 大変よい。基準は「患者の反応に留意しながら実施している。」。Bは合格レベルで, 患者の観察や状況への関心, 思考・判断・表現のレベル, 主体的・自立的な学習態度や, 患者に対する安全な実施という看護の基本原則, 尊厳を護る倫理原則に関しては課題があり, 指導を必要とする。Cは努力を要するで, 評価規準に到達していないレベルである。本校では, 患者の安全の観点から「絶対にしてはならない」行為について図4のように右枠にチェックポイントを置き, ピンクの字で星印付の項目に1つでも該当したら, 失格となる。学生はテキストを参考にしつつパフォーマンス課題の事例を用い, チェックポイントに注意しながら練習して試験に臨む。1回の技術試験で単元が不合格ではなく, 最終的にA~Bになるように教師の指導のもと, 練習をして何度でもチャレンジできる。



自校のルーブリックがあれば、図5を参考に妥当性「評価したいものを本当に評価しているか」、信頼性「テストで測定しようとしている技能や達成事項をどの程度正確に測定しようとしているか」、カリキュラム整合性「カリキュラムにおいて設定されている目標に対応して評価が行われているか」、比較可能性「複数の評価者間で、評価の一貫性が確保されているか」特に、妥当性と信頼性を点検して欲しい。そこで課題が見つければ、改善が必要である。

伝統的な評価とパフォーマンス評価の違いを確認するために猫になぞらえ説明する。昔の猫は、4つの項目の1つ1つができていても、この項目からもれている猫の成長や学びはふるい落とされてしまう。モダンキャットは、「世界で一番役に立つ、ねずみを捕る猫をみつける最短の方法をさがせ。」という課題に取り組んでいる。例えば世界に2番目か、全然役に立たない猫しか見つけられなくても、課題に取り組みながら様々な力を身につけている。さらに、感性や思いやり、人間性まで見るならば、行動を観察する。看護ができるようになったかは、生徒が患者への看護の行動を見たり、一緒に行動することで評価する。

図6は行動主義的な目標到達度評価とパフォーマンス評価の比較である。左側は、3領域のタキソノミーに従い、一般目標を行動主義的な細目標を評価するイメージで、一見、目標に準じた評価に見えるが、実際は目標に到達したか評価ができていない。右側はパフォーマンス評価のイメージで目標とゴール、到達レベルを明確に、ゴールに向かうために最適・最善は教育計画を立てるイメージである。どちらにもゴールがあるが、「目標に準拠」した評価ができるのは、右側のパフォーマンス評価である。



ただし、パフォーマンス評価のゴールは「目標に準拠しながら、目標にとらわれない評価」の意味があると理解する必要がある。細分化した行動目標にするほど、固定した狭い視点からの評価となる。看護基礎教育が長い間「科学的思考」「問題解決思考」「看護過程の展開」を中心とした評価や実習方法をしてきた結果、看護実践力の低下、新人看護師の離職の問題が問われ、新カリキュラムに「臨床判断」が加わり、「臨床判断」のための推論を机上で訓練する動きがある。パフォーマンス評価になっても、思考過程だけを切り離して訓練し、評価しようとすると同じ結果を招く恐れがあるので細心の注意が必要である。手段と目的を混乱させてきた看護教育で、私たちが目指しているゴールが本当に目的なのか、メタ認知を働かせながら改善していく必要がある。

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価の悩みについては、学生が看護師らしく行動しながら看護ができるようになるためには、「パフォーマンス評価を軸に、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度を一体化する評価へと組み替えていく、理解の深まりで評価する」ことが重要で、理解の深まりが目指すゴールで、態度はそのための手段であり、それ自体が目的ではない。

単純化・形式化した思考過程の鋳型に学生の思考を押し込むことと、真に「考える」人の思考は違う。石井先生は「知識を活用したり創造したりする力は、その形式を訓練することによって育たない。」「思考スキルを使って考える」ことを意識させ過ぎると、むしろ思考することを阻害することもある。」と述べ、更に思考力を育てるに

は、まず「考えなくなる状況や深く思考する必然性をどう創るか」が重要で、「思考スキルは、そうした思考する活動が生じた時に、その経験を自覚化するものとして導入していくことが肝心。」と述べている。

文科省は、観点別学習状況の評価を通して看取することができる部分と、観点別学習評価や評定にはなじまない部分があることを考慮する必要があると説明している。看護教育では感性や思いやりを重視する傾向があるが、人間性を点数化することはできない。「一人ひとりの良い点、可能性、進歩の状況を生徒に積極的に伝えることが重要」だと理解しておく必要がある。

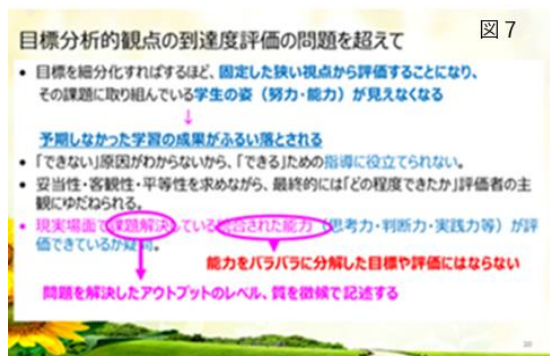


図 8 (1) 臨地実習の評価基準の例

能力評価と定着していた2014年のルーブリック（クリティカルケア看護実習）

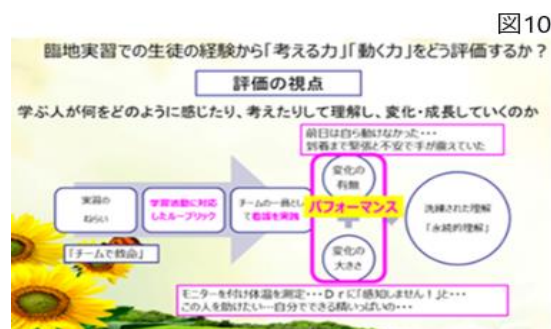
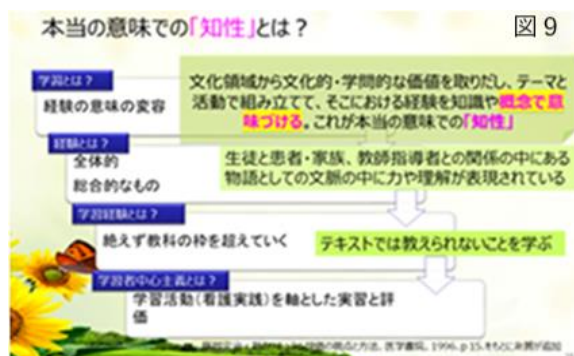
学習領域	評価項目	評価基準	評価基準	評価基準
臨床的知識・技能	① 臨床的知識・技能の理解・応用	① 臨床的知識・技能の理解・応用	① 臨床的知識・技能の理解・応用	① 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	② 臨床的知識・技能の理解・応用	② 臨床的知識・技能の理解・応用	② 臨床的知識・技能の理解・応用	② 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	③ 臨床的知識・技能の理解・応用	③ 臨床的知識・技能の理解・応用	③ 臨床的知識・技能の理解・応用	③ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	④ 臨床的知識・技能の理解・応用	④ 臨床的知識・技能の理解・応用	④ 臨床的知識・技能の理解・応用	④ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	⑤ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑤ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑤ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑤ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	⑥ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑥ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑥ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑥ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	⑦ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑦ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑦ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑦ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	⑧ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑧ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑧ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑧ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	⑨ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑨ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑨ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑨ 臨床的知識・技能の理解・応用
臨床的知識・技能	⑩ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑩ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑩ 臨床的知識・技能の理解・応用	⑩ 臨床的知識・技能の理解・応用

2. 生徒が看護師らしく行動できるようになる評価とは？

臨地実習を例に説明する。上の図8は「能力評価であった2014年、初めて手探りで作成した評価表で、行動主義的な評価が見事に表現されている。学習活動に対応した評価の観点で、①、②の全てを満たす、1つを満たす、という尺度の評価表であった。このとき、B評価の1つを満たすことが問題になり、どちらを満たしてもBになるが、①の方ができなければBにしたいという教師がいた。1つができればBとなり、評価の妥当性が問われた。この評価基準を使った学生の一場面を評価するとどのようなようになるのか。

臨地実習は刻々と変化する臨床状況下にあり、マニュアルやテキストの手順は通用しない。臨地実習の評価は、学内で学んだ知識・スキルを総合しながら思考・判断・表現を働かせ、最善を尽くして実践（パフォーマンス）をする生徒の姿を捉え、どのような看護がどのレベルでできるようになったかを看護場面（学習活動）ごとにパフォーマンス評価することが大切である。

本当の意味での知性は学習における経験を概念で意味づける事である。臨地実習は生徒が事前に学んだ看護が、患者への実践経験を通して実態のある看護へと変容して意味づけられ、本当の意味での知性を学ぶ。学びは学習者が主語の世界で生まれるので、パフォーマンス評価の基準は、学生が看護を実践しているイメージからつくる。



臨地実習で生徒の経験から「考える力」「動く力」をどう評価するか、クリティカルケア看護実習を例に説明する。5日間の救急外来での実習で、看護師とともに救急患者の受け入れ準備や、治療・検査の補助を行い、時には外来トリアージにも参加する。救急外来の中で自分ができる最善を尽くして看護師と行動する中で、救急外来におけるチームで連携の大切さ、看護師の役割を理解する。臨地実習は、「考えながら」「行動する」経験を通して看護を理解する場である。看護を実践している生徒のありのままの姿を捉えながら、支援、助言、コーチングをする「指導と評価の一体化」が重要で、学生の努力や成長、変化は積極的にフィードバックする。

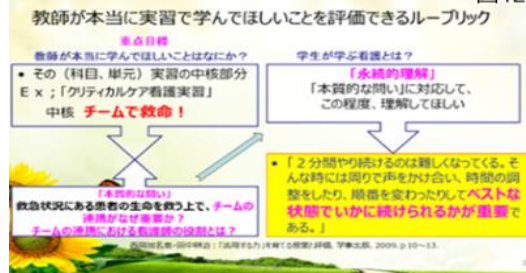
クリティカルケア看護実習の「逆向き設計」から評価まで詳しく説明すると、2019 年改訂指導要領の「何ができるようになるか」のゴールは、「教師の願い」を描く中で明確にする。次に、重点目標に対応した「本質的な問い」を立てる。そして、「本質的な問い」に対応した、「この程度は理解してほしい」という教師の適正解を文章

にする。そこに向けて実習で実践してほしい学習活動を決める。全ての学生が違う体験をするので表現は様々で、正解は1つでない。評価には生徒の「理解」の深まりを看取る教師の力量が発揮される。

図11 臨地実習でのパフォーマンス評価の目的

- 刻々と変化している臨床状況の中で、**学生が状況に応じて臨機応変に考えながらどのような判断をし、行動し、どのような力を発揮して看護を実践し、学び、成長を遂げているか、そのプロセスの中で努力している生徒の真の姿をとらえ、必要な支援、助言をすることで、指導と評価の一体化を目指す**。

図12



現在の評価基準は「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ態度」の観点別にせず、生徒のパフォーマンスを3つの観点を統合した表現にし、尺度(微候)が具体的になっている。(図13, 図14)

図13

クリティカルケア看護実習2024年版 評価基準(救急外来抜粋)

評価項目	評価基準	評価項目	評価基準	ポイント
1. 救急外来に到着した患者の対応	チームで対応し、迅速に処置を行う。必要に応じて、他のスタッフと連携し、患者の安全を確保する。	2. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	3. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	4. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。
5. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	6. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	7. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	8. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	9. 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。

図14

クリティカルケア看護実習2024年版 評価基準(救急外来抜粋)

(3) 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	観察 対話 カンファレンス P R F	主訴を元に患者に起こっていることを確認し、カンファレンスを行い、必要に応じて処置を遂行する。	主訴に対して適切な処置を遂行するため、必要に応じてカンファレンスを行い、必要に応じて処置を遂行する。	患者の主訴に即応する。必要に応じてカンファレンスを行い、必要に応じて処置を遂行する。	□AMPLE 「アレルギー・治療歴・既往症・投薬・家族の食事・受診経緯」 □フィジカルアセスメント □現状把握 □検査データ □治療方針 □ケア計画 □評価 □フィジカルアセスメント □現状把握 □検査データ □治療方針 □ケア計画 □評価
(4) 患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	観察 対話 カンファレンス P R F	患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	患者の生命の危険を察知し、迅速に処置を行う。	□AMPLE 「アレルギー・治療歴・既往症・投薬・家族の食事・受診経緯」 □フィジカルアセスメント □現状把握 □検査データ □治療方針 □ケア計画 □評価 □フィジカルアセスメント □現状把握 □検査データ □治療方針 □ケア計画 □評価

パフォーマンス評価を使った指導のコツを説明する。

実習前のルーブリックは学生の主体的・自立的学習のための指標である。実習中は、学習活動(看護の実践)の場面で、学生の自己評価や教師の指導と評価の一体化、指導の改善のために活用する。CならBになるように、BはAになるよう、Aはさらに評価を深められるようアセスメントし、個別の支援をし、実習後は、自己評価や成長エントリーの指標となる。ルーブリックには表れない感性や思いやりは、対話やコメントで積極的に評価を伝える。自己評価と教員・指導者の評価から次の自分の課題を明確にし、次の実習プロジェクトを開始する。

ルーブリックを活用した指導のコツ 図15

前

- 主体的・自律的学習のために、ルーブリックでその領域で学ばない学習内容を明確にする(能力観点) **おぼろげなイメージでなく、これはこれだ。**
- 生徒が主体的・自律的に学習計画を立て、事前学習の進捗をルーブリックで作る。

中

ルーブリックつづい、記録の指導をしない

- ルーブリックの「評価」(「知識・技術」)がわかるようにする。
- 看護の観点を広げ「知識・技術・態度」を探究し、探究した内容をルーブリックで評価できるようにする。
- 記録の指導をしない。記録を求め、無知の知に気づくような問いを投げかける。多岐多岐になる。
- 実習の内容が伸びていない限り、ルーブリックを指導するよう注意する。教師のアセスメント、指導と評価の一体化。

後

- ルーブリックで自己評価をする。ないが、どこまで理解できたか、概念の理解の深まり、「永続的理解」、自己成長のアプローチを。ルーブリックにはない体験や学び、「感性」「思いやり」「点数化しない」が実践やリフレクション、対話の中に現れる。も積極的に良い点を評価する。
- 次の実習に向けた課題を明確にし、実習の振り返りを開始した状態にする。

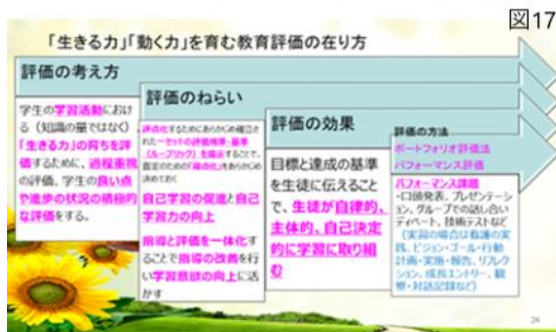
ルーブリックを活用しながら目標達成に失敗する要因 図16

- 「やらせる」プロジェクト学習、ポートフォリオ、記録
- 「やらせて」コーチング、ファシリテーション指導
- 「枠にはめる記録」「記録で評価」の結果主義
- 実践なき学び(意味・価値づけ)なし!
- 学生の自己学習に活用できないルーブリック:抽象的で指針にすぎない基準
- 臨床現場とかけ離れたルーブリック-教科書の目次・内容の網羅
- 理念なき方法論(コピー、書式に文字を入れる作業)
- 生徒が「できるように」するために、指導と評価を一体化させて指導の改善をしない
- 生徒を信じない、成長を待てない-自己不信

これまでの内容を参考に、作成中のルーブリックを、評価の考え方、ねらいは何か、評価の効果を考えているか、それぞれの評価の目的(何を評価するのか)に沿って、パフォーマンス評価を効果的に指導し、改善に生かしているのか、点検してみたい。とくに実習のルーブリックの作成で注意したいことは、テキストの内容をそのまま載せないことである。患者のニーズと目線から、どんな看護を実践してほしいか、看護師としての経験と教師としての知見を手掛かりに、教師自身の言葉で期待する看護の質を文脈にする。

3. まとめ・質疑応答

パフォーマンス課題とルーブリックは、常に目標との一貫性と生徒の状況から点検・評価・改善が必要である。パフォーマンス課題とルーブリックの作成が目的ではなく、「看護ができる人を育てる」という使命に向かい、看護の世界をよりよい世界に変えられると信じている。



質疑・応答

千葉学園 山岸： 先生のお話に衝撃を受けた。まず思考を育てようかと実習を計画していた。

※賀講師：思考は1人1人違うが、きちんと看護になっている。型にはめず1人1人の課題解決の思考を育てよう。

千葉学園 山岸:人間性や感性を点数化しない3観点が難しい。本校の実習ルーブリックは態度面を入れている。本校では色々なものを枠にはめて生徒が自主的に動いていないのが問題だと気付いた。

糸賀講師：人間性は点数化できず、文科省も入れないとしている。現場で、「全情報が無ければ看護できない看護師」は役立たない。優先順位を考え、看護に必要なアセスメントに関わる情報が取れているかが問われる。限りある情報の中で重要な情報を判断し、情報を元に重要性を判断して行動できる。「考える人」を育てる事がレディネス教育である。生徒は主体的でなければ動かないので、入り口の部分をパフォーマンス評価で作ってあげる。

黒石高校 小川：先生の学校ではアセスメントシートは書いていないのか。

糸賀講師：リフレクションノートだけだが、リフレクションノートは考えた事が必要である。はじめは日記のようだが、段々、何故そう考えたのか理由が書けるようになり、次は実践しながら思考する内容が書けるになり、最後は実践の中でリフレクションをしながら、それを記録するようになる。

ただし、アセスメントは記録用紙を埋めるのではなく、今、患者に何が起き、何がニーズで、看護は何をするべきかという本物のアセスメントでなければならない。看護計画も評価資料ではなく参考資料で、計画の指導はしない。何故なら、看護計画は計画看護の経験者しかできず、学生は患者の3週間後にどうなったら良いのか目標は立てられない。看護計画がなければ看護できないのではなく、学生のうちは看護をしながら、実習が終わる頃にこういう目標で、このような事を意識して看護をしていたのだと気づき、今度は自分で計画を立ててみようかなと考えるよう、看護計画を伝えて行く過程である。ヘンダーソンも言っているように、本来、看護の現場では計画を立て、計画の中で実践していくことはあまりない。現場の中で、看護師のように考えて動くことを指導すれば学生はアセスメントをするようになる。

黒石高校 小川：生徒は記録には書けないが、パッションで何をしたいか聞くと答える。

糸賀講師：パッションは大事で、記録に何を書かせるかがポイントである。今日、学んだ事、インパクトに残った事、知りたかった事、分からなかった事等、要素だけを書かせていく内に、どんどん自分で勉強したことも残すように指導すると良い。何か1つ勉強してきたらどうかと話す等、順番に関心のあることを引き出すという方法もある。その中に看護師の感性を入れなさいと言って上げると、パッションも活きるのではないかな。

時間となってしまった。看護に対する思いがあり、患者に良い看護をしたい、そのために看護教育が変わらなければならない、とここまで頑張ってきた。先生方の気持ちがあれば看護教育は変わるのではないかと楽しみになってきた。本日はありがとうございました。

司会者 それでは、令和6年度青森県高等学校教育研究会看護部会講演会を終了させていただきます。

社会人基礎力の育成につながる「学びの舞台」の設定と観点別評価について

千葉学園高等学校 教諭 山岸 理津子

I はじめに

本校看護科の大半の生徒は、「1年でも早く看護師として働きたい、社会に貢献したい」という目的を持って入学している。一方で、漠然とした医療系の憧れがあり、親や中学校教諭が勧めたことで入学してくる生徒もあり、目的意識だけでなく、学力差も大きい。

また、現代の生徒・学生は、友人関係をSNSで育んだり、「叱られる機会」や「承認される機会」が少なくなったことで、傷つくことを恐れ、「同質との仲間とだけつながる」という傾向があり、他者との関係性が希薄であると推測される。

このような生徒・学生にとって、病を患い、自律した生活を送られなくなってしまった親より年上世代の患者の苦悩や生活を理解し、援助していくことは、決してたやすいことではない。そのため、看護基礎教育において、多様な学生に看護の専門知識のみならず、社会人基礎力を育成する必要性が生まれてきている。

社会人基礎力とは、2006年に経済産業省が発信したもので、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」であり、「前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）」「考え抜く力（課題発見力、計画力、想像力）」「チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟力、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）」の3つの要素と12の能力要素から構成されている。さらに、2017年には新たに3つの視点を加えて「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義している。これは、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切り開いていく上で必要と位置づけられている。

新学習指導要領においても、「資質・能力の3本柱」で目標が整理され、学習評価も3つの観点となったことで、「学校の出口」の生徒の姿をイメージし、組織的に授業と評価の改善に取り組まなければならない。そこで、この研究協議を通して、社会人基礎力の育成を意識した学習指導の内容と評価方法について、情報を共有していきたい。

II 本校の取り組み

(1) 高校1年生：臨地実習前後の取り組み

（ねらい）実習目標が達成できるようにするとともに、多様な目的意識で入学している生徒に、改めて看護師の魅力や必要な資質・能力について考える機会とする。

①「看護覚え書」を読み、自分の考えや思いをワークシートにまとめることで、改めて看護の本質について考える機会とする。

②「プロフェッショナル 仕事の流儀 『希望は必ず見つかる』 がん看護専門看護師 田村恵子」の動画を視聴し、田村看護師が大切にしていることや、心に残った場面・言葉などについて、自分の意見・感想をまとめる。

③「患者が看護者に求めること（看護者に求められる資質・能力）」についてKJ法を活用し、グループで協議内容をまとめる。

（2）高校2年生：「人体の構造と機能（栄養）」における取り組み（ねらい）既習科目の知識も用い、栄養素の働きや存在部位を理解し、健康への影響や疾患予防について考えを深める。パフォーマンス課題を通して、高校生に多い貧血に関する保健指導内容を考え、自分や身近な人の健康保持増進に取り組む態度を養う。

① ビタミン・ミネラルの調べ学習をし、発表

② パフォーマンス課題の実施。

（3）高校3年生：「健康支援と社会保障制度（公衆衛生）」における取り組み（ねらい）身近な人の、健康に対する意識や生活習慣の状況を調査し、「健康日本21」の目標の達成状況を把握するとともに、「短命県返上」のための方策を考える力、態度を養う。相手を尊重したコミュニケーションを図ることができる。①本校教員（一部）にインタビューを実施。（手順やルールを提示）②インタビュー結果を発表スライドにまとめる。

③発表後、クラス全体で健康保持増進のための方策を考える。[予定]

Ⅲ 今後の課題

(1) 学校外での実習や学校内での演習、グループワークなど「人との関わり」が増えていくことが社会人基礎力を育成する要素の1つであると思うが、その際、現代の生徒・学生の特徴である「目的意識・学力の幅が大きい」、「他者との関係性が希薄」、「生活体験が乏しい」ことで指導上苦慮していること、効果的な指導例などがあれば情報を共有したい。

(2) カリキュラムと授業、評価を一体化させ、授業改善していかなければならないが、評価が煩わしい事務作業になりがちである。特に、各科目において「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」をどのように育て、どのように評価するか、各教員が頭を悩ませているところである。各科目とくに臨地実習において、この2観点をどのように評価しているか、情報を提供していただきたい。

発表2

多様性を重視した次世代の看護職の育成

～看護科1年生における看護臨地実習事前オリエンテーションの取り組み～

青森県立黒石高等学校 教諭 柴田 紗貴子

1 はじめに

新学習指導要領の開始から3年目となり、本校の看護教育においても手探りながら授業や看護臨地実習を実施しているが、その取り組みを評価する時期にもなっている。「看護実践能力の基礎」を習得することを目的にした看護臨地実習は、看護の知識・技術とともに、看護職者として求められる人間に対する理解、尊重、倫理観や社会性を学習する場であるため、生徒たちの学習意欲を高めようと各担当者が様々な工夫をしながら準備、調整、事前オリエンテーションをして実施に至っている。その学習効果を上げる方法としてICT活用による全体指導の他、多様な考え方や価値観の違いを前提にして対応していくための指導法が求められていると感じている。そこで、本校の取り組みの現状を報告し、今後の課題について問題提起としたい。

2 本校看護科における看護臨地実習のカリキュラム

	単位数(時間数)	実習先	学習内容
看護科1年	1単位(35) (基礎看護)	4施設	ア 保健医療施設の機能と看護の役割 イ 対象の理解
看護科2年	4単位(140) (基礎看護)	6施設 (1人5施設)	ウ 看護におけるコミュニケーション
看護科3年	7単位(245) (基礎看護1単位) (成人看護4単位) (老年看護2単位)	5施設	エ 日常生活の援助 オ 看護の展開

高校1年生は7月に2回、9月に1回、10月に1回の計4回基礎看護臨地実習を実施している。

3 本校の取り組み

(1) ポートフォリオの活用

生徒が自分の思考や行動を客観的に見て振り返り、教員からのフィードバックにより生徒自身が自分を成長させることを目的にポートフォリオの活用をしている。学年初めに1冊ファイルを準備し、1年間の学習行動を時系列に綴っていくことにより、生徒は何を見てどんな情報を得てどう行動したのかを追う事が出来るほか、教員側もポートフォリオを使用して対話により相手を理解した上でサポートすることが出来るなど、一人ひとりのやる気が高まる学習支援につながることを期待して実施している。

(2) 視覚に訴える資料を意識した実習オリエンテーション

看護臨地実習において、事前の知識の習得のほか要項に記載してある内容に沿って、各臨地実習先での具体的な学習内容と方法を把握すること、実習に臨むための基本的な心構えや服装、身だしなみなど、指導すべき留意事項は数多い。短期間で一つ一つ生徒が理解して行動できるように準備しなければならない。情報吸収力について、メラビアンの法則では、自分の言いたいことを利き手に正しく伝える方法として、視覚情報が人に与える情報は55%と、聴覚情報の38%や言語情報7%に比べて効果が高く、ビジネスシーンでもプレゼンテーションが欠かせなくなっている。そこで、事前に全体的なイメージをした上で安心して看護臨地実習に向かうことが出来るような内容にすること、一方的な説明を聞かされているような感覚になることを避ける目的で、パワーポイントによる説明と、個人情報取り扱いガイドブックを使用した事例の教材を活用した。

(3) ルーブリックによる評価

パフォーマンス評価であるルーブリックを取り入れることで、課題である学習活動について、実習中に何を期待され、実際にどのように行動すればよいか明確化し、評価は使う人が意図的に活用することで多くの利益をもたらすものであることを伝え、オリエンテーションの際に渡している。どのようにかかわることが良いのか可視化できることで、自身の成長過程を知ることができるものであるが、生徒が丁寧に読み取って記載できているか、各施設等に合わせたリストになっているかについては修正が必要で、今後の課題としている。

4 見えてきた生徒の課題

経済産業省が打ち出している社会人基礎力の3つの能力、12の能力要素にある「前に踏み出す力（主体性）」や「考え抜く力（計画力）」、「チームで働く力（規律性）」について、それぞれに対応する課題が見えてきた。

- (1) 講義資料やノートの整理が苦手・・・「前に踏み出す力（主体性）」
- (2) 状況の推測や危険予知が困難で準備がうまくできない・・・「考え抜く力（計画力）」
- (3) 情報モラルに対する捉え方の未熟さ・・・「チームで働く力（規律性）」

(1) について

オリエンテーションにおいて、ルーブリックに綴るものは何かを記載した表紙をもとに説明をし、時系列になるように一緒に作業を行った。しかし、講義資料や授業プリントなどの整理整頓が苦手な生徒は一定数存在しており、授業の進捗についてこられず聞き逃してしまう、資料の紛失があった生徒は時間内で作業をすることができなかったため、後日、対話によって一緒に綴る作業が必要となった。

(2) について・・・考え抜く力（計画力）

従来のオリエンテーションでは、要項に沿って読み上げながら説明し、メモをとっている。しかし、メモをとるよう声掛けをしないとできない生徒や、文字のみの情報では具体的なイメージを持つことが困難である生徒への対策として、パワーポイントによる説明を行った。また、資料が必要になったらすぐ見られるよう、グーグルクラスルームに投稿し、確認できるようにした。

(3) について

入学後まもなく情報モラル違反があり、学年で指導を複数回実施している。そのほか、基礎看護の授業の中で「実習における情報の取り扱い」についての指導を行った。生徒たちにとって、スマホは「持ち歩けるモノ」という環境があり、その自分のスマホに保管している情報は、他者が容易に入手され、拡散されてしまう。SNS上にUPされた情報は、その後どうなるのかという認識がイメージできないという事が明確だった。教材として、日本看護学校協議会共済会で発行されている「個人情報取り扱いガイドブック」のパンフレットを使用し、事例をもとに、リアルな内容に触れることで考えさせることにした。期末考査の中にも盛り込み、一人ひとりがどのように考

えているのかを思考・判断・表現の観点にて期末考査に出題したが、「なぜいけなかったのか」については、大半の生徒が正解していたが、「どうすべきだったのか」という問いに対して、具体策を書き出せた生徒は1%だった。

5 多様化する生徒たちの背景

現在在籍している生徒は、2004年～2009年生まれにあたり、Z世代として世界的に注目される存在である。このZ世代は、生まれたころからインターネットがあるため、インターネットやSNS、スマートフォンへの馴染みが強いと、自然と使いこなすことが可能であり、これまでの生徒の様子とは様変わりしてきていると感じている。その背景に、現在の生徒達が学校に通い始めたころにはすでにインターネットが常時接続できつつある環境に変化していたこと、また教育現場においては、GIGAスクール構想の推進により、ICT環境の整備が急速に進められ、2020年から青森県内では一人1台のタブレットが準備された。このことにより、一人ひとりにとって最適な学びと、協働的な学びを共に実現して、教育の質向上が期待されている。

看護学生としての情報の取り扱いにおける指導の前に、高校生としての情報モラルに対する徹底した指導が必要で、具体策までの理解をさせていかなければならない。半面、ICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるよう、情報活用能力を育成する役割も教職員には求められていると考える。

6 課題について情報共有したい事項

(1) 計画的に物事を見極め、課題解決に向けたプロセスを明らかにして準備するなどの「考え抜く力」をどのように引き出し、指導しているのか。

※提出物を計画的に進めることができない、具体的な行動へのイメージが難しい生徒への指導について情報共有したい

(2) 情報ツールがスマホや携帯電話となっている生徒たちへの情報モラルに対する指導の時期や内容、教員間での統一した指導方法の実例と情報共有をしたい

質疑応答・情報交換

黒石高校 高橋：パフォーマンス課題を「生徒の説明原稿を作る」とした理由は何か。説明原稿の作成課題で使った指導ツールは何か。2人1組のでは、どの段階までペアで進めることができたか。

千葉学園 山岸：授業の「人体の知識」を活用する力を見るために中間考査の内容に入れ、考査1週間前に提示した。ビタミン・ミネラルとした理由は、授業で3大栄養素を学び、インプットされた内容を使えるためである。授業内容より難しい点は高校生の教養として取り組ませ、どこまで達成しているかを公衆衛生の授業担当教員に聞きなさいと指示した。原稿は1人1原稿を作成させたが、取り組みは2人持ち寄りで作成させた。

黒石高校 小川：山岸先生は「生徒の自己肯定感を高めるため」に取り組んでいるとの事。学校を問わず、看護科の生徒は臨地実習を楽しみにしていないのではと感じる。「朝、実習場所にただけでも百点」、円陣を組んで「頑張るぞー」と声を出してから病棟に上がるなどの取り組みをしている。生徒が不安で緊張する実習に行きたくないと感じないように、現場では、「教師が生徒を全力で守る」という姿勢を示し、安心できるようにしている。

黒石高校 小川：インタビューの相手は看護科以外の教員も入るか。

千葉学園 山岸：教科担任など生徒が知っている教員を入れている。

千葉学園 早狩：専攻科の評価表はルーブリックか。糸賀先生が「学生と一緒に作ると良い」と言ったが。

黒石高校 小川：ルーブリックをまだ、糸賀先生を知らない時にネットで調べて作った。仕上がったものが糸賀先生とそっくりになった。実習では四六時中、生徒を見ることは不可能なので、提出記録がなければ評価が困難である。リフレクションをレポートに盛り込むには生徒は考えなければならない。生徒には「高い評価が欲しいなら記録も頑張ろう」と指導している。

黒石高校 小川：自分は糖尿病のパンフレット作成を専攻科1年の夏休み課題とし、相手の模擬患者は誰でも良い事にしており、好きな芸能人など自由に対象を設定させている。患者が学生にとって「好きな人」だと進んで作成する。本校はかつて高校性が昼休みに教員の血圧測定をしていた。先生のアポイントも生徒自ら行っていた。

黒石高校 田中：自分が在籍中に経験した。アポイント取りも含めて良い世代間交流であった。

黒石高校 小川：教員は「生徒が経験するシーン」を作る必要があると感じている。

黒石高校 高橋：学生が参加して作った後は、複数の教員が見て共通理解を図る必要がある。千葉学園はどのように教員間での共通理解を図っているか。本校は5～6人の教員で関わるので一同に集まるのが難しい。

千葉学園 早狩：千葉学園は領域分けをしており、専攻科は教員1人＋病院指導者で評価基準を使う。

千葉学園 三浦：高校は4～5人の教員が1つの評価表で評価する。主観が入ることもあるが、教員間で情報を交換している。

千葉学園 山岸：黒石高校は病院指導者からの評価はないのか。

黒石高校 小川：ない。現場の指導看護師によって評価のバラつきが著しく、学校で参考にできなかった。学校も現場(病院)も互いにストレスとなり、現場の評価をやめざるを得なかった。

黒石高校 高橋：情報モラルの指導はどうしているか。

千葉学園 三浦：高校は入学間もない時期に、企業の講師を招いて学年で情報モラル教室をする。看護科は実習前に、メモ帳の扱いなど、実習ではいけない事を紙面と口頭の両方で伝える。実習記録はメモ帳も含め実習終了後に回収し、他に情報が漏洩しないようにしている。スマホは施設も含め、実習先で電源を切る指導をするが、使い方については互いに傷付いた事例があり、指導には苦労がある。

千葉学園 早狩：専攻科は情報モラルノートを専攻科1年で配布している。ネットでダウンロード可となっているので、ダウンロードして学生に伝え、考える事例も活用した。実習記録を紛失した事例がある。スマートフォンは日常化し、学生が四六時中見ているので指導に苦慮している。

助言

青森県立黒石高等学校 教頭 平山 貴

看護科の先生方の評価は緻密な取り組みであり、頭が下がる。ルーブリックの作成に関して、3観点にこだわらなくて良いとの話もあったが、学校教育課から評価に3観点を必ず入れなさいと指導されるので、引っかかる。

今後、改善される方向に向かうと思うが、実情については現場から声を上げないと伝わらないので、現場の声を上げ続ける必要があると思う。

生徒たちの、他者との関係が希薄、生活体験が乏しい等、問題が発生している。今の中学生は特にコロナにより小学校で修学旅行が出来なかったなど、指導が大変な状況があり、このような環境で教員の連携で簡単に解決できる事ではないが、小川先生からの報告例もあったので、生徒を励ましながらい指導を続けて行くのが良いのではないか。

千葉学園高校は主体的に取り組む態度の観点が漠然としていて、3観点との整合性が課題である。

黒石高校はスマートフォンの指導に苦慮する現状がある。生徒指導の8割を携帯電話が占め、これからはどの学校でも生徒指導の問題で携帯電話は主となるであろう。

今日、情報共有したことが大変有意義であった。先生方、大変ご苦労様でした。

部 会 の 動 き

令和6年	5月11日(木)	高教研第1回理事会 (青森市・アピオ青森)
令和6年	5月23日(木)	青森県高等学校教育研究会事務局長会議 (紀要編集及び会計事務について) (青森市・青森県総合社会教育センター)
令和6年	6月21日(金)	全国看護高等学校長会 東北地区協議会理事会 (仙台市 TKP 仙台西口ビジネスセンター)
令和6年	8月 1日(木) ～ 8月 2日(金)	第55回全国看護高等学校研究協議大会 (香川県高松市 ホテルパールガーデン, ホテルマリンパレスさぬき)
令和6年	8月20日(火)	青森県高等学校教育研究会 看護部会研究大会 (青森市・青森市男女共同参画プラザ)
令和6年	11月27日(水)	高教研第2回理事会 (青森市・青森県総合社会教育センター)
令和7年	2月中旬(予定)	会計監査 (八戸市・千葉学園高等学校)

研 究 テ ー マ

紀 要 (集)	年 度	研 究 テ ー マ	会 場	会員数 (一・ 二希望 計)	大 会 参 加 数	大会 発表 者数
49	16	新学習指導要領を踏まえた看護教育のあり方を考える ー新たな看護教育の実践を模索してー (全国看護高等学校研究協議大会)	福島県郡山市 郡山ビューホテル	19	全国240 (県内 9)	2
50	17	看護基礎教育の充実・あり方を考える ー看護過程の効果的な指導方法を模索してー	青 森 市 県総合社会教育セン ター	21	17	1
51	18	自ら学び考える力と豊かな心を育てる看護基礎教育 ー新たな看護教育を実践してー	黒 石 高 校	21	17	3
52	19	進展する社会に対応した看護基礎教育のあり方を考える ー看護実践能力の向上を目指してー	弘 前 市 弘前パークホテル	22	25	2
53	20	臨床実践能力を育てる看護基礎教育のあり方 ー看護基礎教育の充実ー	青 森 市 県総合社会教育センター	21	16	2
54	21	新カリキュラムに対応した看護教育のあり方を考える ー臨地実習の充実をめざしてー	青 森 市 県総合社会教育センター	21	18	2
55	22	実践力・応用力を育てる看護基礎教育のあり方	青 森 市 県民福祉プラザ	21	21	4
56	23	看護実践能力を育む効果的な指導のあり方	青 森 市 県総合社会教育センター	23	20	4
57	24	判断力・実践力を育む看護基礎教育の充実を目指して	青 森 市 県民福祉プラザ	22	20	2
58	25	高等学校における看護基礎教育に求められるものを考えるー 看護実践能力の向上を目指してー	黒 石 高 校	22	17	2
59	26	看護のスペシャリスト育成を目指して ー今,求められる看護実践能力ー	青 森 市 青森県立図書館	21	18	2
60	27	社会のニーズに応えられる看護基礎教育の充実を目指して	青 森 市 県総合社会教育センター	26	19	3
61	28	看護の発展を支える人材育成を目指して	青 森 市 県総合社会教育センター	24	21	3
62	29	看護の発展を支える人材育成を目指した看護基礎教育の実践	八 戸 市 八戸パークホテル	24	30	2
63	30	高等学校の看護基礎教育における新しい時代に求められる 資質・能力の育成 ー主体的・対話的で深い学びを通してー	青 森 市 青森県立図書館	22	21	2
64	1	在宅看護論及び在宅看護実習の現状と課題	青 森 市 県総合社会教育センター	22	17	2
65	2	看護を創造する能力を育む看護基礎教育の実践 ー多様性・複雑性に対応できる教育方法の研究ー	青 森 市 ホテル青森	25	全国136 (県内38)	5
66	3	看護師国家試験対策	八 戸 市 千葉学園高等学校	23	20	3
67	4	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 高等学校における看護基礎教育のあり方	青 森 市 県総合社会教育センター	24	20	2
68	5	「多様性を重視した次世代の看護職の育成」 ～DE&I (ダイバーシティ, エクイティ&インクルージョン)を通して～	青森市 男女共同参画プラザ	24	16	2

